

## 令和6年度第4回（第6回）リハビリテーション委員会 議事録

日時 令和6年10月2日（水）19:00～

場所 オンライン開催

### 参加者 21名

鈴木郁子・郷間英世・榎勢道彦・濱田恵理子・池上陽子・栗原まな・佐藤匠・岸本光夫・岩島千鶴子・黒川洋明・高塩純一・金子断行・大嶋志穂・中村達也・虫明千恵子・木下裕俊・豊田隆茂・武藤茜・長谷川雄大・橋本悟・宮地知美（書記）

### 自己紹介プレゼン（心理部門）# 1

「これまでの重症心身障害児者とその家族とのかかわり」

郷間英世先生（小児神経医師）：姫路大学

- ・ 学生時代：ボランティアでの重症心身障害児との関わり  
→ケアの双方向性 障害のある人や家族に関わる仕事へ進む
- ・ 小児科医として国立療養所重症児者病棟勤務  
→水頭症の子どもとその保護者との関り
- ・ 教育大学 障害児（特別支援）教育の教員として  
→重症心身障害児者のQOL  
→微笑行動からみた重症児者の発達や精神構造  
→重症児者のコミュニケーションを考える
- ・ 定年後、看護学研究科の教員  
→長期間関わっている重症心身障害児者の生活

### 自己紹介プレゼン（心理部門）# 2

宮地知美（公認心理師）

：堺市立重症心身障害者児支援センターベルデさかい

- ・ 公法人立重症児者施設および国立病院機構へのアンケート途中経過報告  
→対象は心理担当職員、および管理者
- ・ ライフストーリーの聴取

### 全体会議

#### 栗原先生より

この委員会を毎年積み上げていって、重症心身障害のリハビリテーション

をつくっていききたい 3年5年の計画としてつないでいききたい  
学会でリハ委員の顔合わせの場があれば

→金曜日のお昼に集まる方向で

## 鈴木先生より

・学会シンポジウム：

→シンポジスト 各人15分

PT:榎勢 OT:岸本 ST:虫明 心理:郷間(宮地)

質疑応答 各5分 計20分×4=80分

→最後の30分

- ・重症心身障害の方々とのコミュニケーションについて  
…「いま、ここ」での相互応答性 表出・表現をどう読み取るか
- ・長期的予後 ライフサイクル ACP  
…全体像を語る専門家の存在の大切さ
- ・「本人さんはどうおもってはるんやろう」にもどって考える

各シンポジストから内容についてコメント(各シンポジストより概略説明あり)

PT：榎勢先生

- ・PTの立場から 理学療法士の手の役割

OT：岸本先生

- ・自分の経験を通してはなす「3つのごめんなさい」

ST：虫明先生

- ・言語聴覚士が重症児者にかかわるのは、コミュニケーションと食べる  
こと

心理：宮地

- ・正直、突然シンポジストとなり戸惑いがある 学会を通してアンケートを取ったのでそれをお返ししなければと思っている

全体より：シンポジウムについての意見

- ・それぞれが長く取り組んできたことの共通として「その人はどんな風に  
思っているのかな」と皆さんが感じた部分がある それについて、それ  
ぞれの職種から聞けるということが大切なのではないか
- ・「本人さんはどうおもってはるんやろう」発達がベースになる 発達を  
ベースにして考えていけたら

- 双方向性が大事と思った みなさんが真摯にとりくんでいること、現場で苦労してたたき上げてきたものが感慨深い
- シンポジウム、会場に聞きに来た人が、それぞれ自分の普段思っていることは、こんなキーワードと関連していることを持ち帰ってくれたら十分ではないか
- 身体性、間主観性などホットなキーワード リハビリテーション委員会として、なにかキーワードを決めてそれを1年とおして取り組みができれば横のつながりもできるのではないか
- 関連領域の話が聞けるのがありがたい 中堅がやるべきことを示してもらえるといい
- あえてまとめる必要はなく、みんながそれぞれ考えていることがあって、そればまとまって“その人らしさ”がつくられていくのだなということに改めて感じた

鈴木先生より：

- 会員ページに議事録あるので、それを読んで ①学会についての意見、② 今後のこの委員会についての意見、メールで意見いただければ
- 学会の金曜日にリハ委員の集まりを設定したい